

言語活動の充実を図る 言語技術を使った 授業展開の研究

高知県 言語技術教育研究会

代表 梶原 和美

本研究会の活動の目的は、次の3点である。

- ① 「言語活動の充実」を図る「言語技術」を使った授業展開の研究と実践
- ② 高知県東部地域における教員の研修の場を作る。
- ③ 教員の指導力向上

本年度開催した研修会は6回。

先進的な取組をされている広島県の先生方から

言語技術や言語技術を使った授業展開について学んだり、

演習を通して互いの言語能力を高め合ったりすることができた。

高知新聞社やNIEホットライン、徳島県NIE教育推進協議会との

合同研修会も行うことができ、研修内容の幅を広げた。

1. 研究会のテーマ

本研究会では、言語技術の指導は、教科等の学習に必要な「聞く」「読む」「話す」「書く」の基礎を身に付けさせるものであり、言語技術を活用することによって、子どもたちが理由や根拠を明確にして受け答えをしたり、多面的な見方をしたりするなど、言語活動を支える基盤になるものと考えている。

「ことばの教育」に早くから取り組んでいる広島県では、平成17年度より「ことばの教育」の中に言語技術を取り入れている。言語技術を習得することにより、学校だけでなく実社会でも活用できることばの力の育成を目指している。

- ① 情報を主体的に獲得する
- ② 自分の考えを組み立てる

- ③ 分かりやすく発信する力を身に付ける。

また、学習指導要領においても、下記のように示されている。

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。

(学習指導要領解説総則編)

そのため、国語科で、話す・聞く、読む、書く等の基本的な力の育成を図るとともに、各教科においても、記録、説明、論述、討論等の言語活動を充実することが重視されている。

2. 言語技術で育てたい力

右図でも示しているように、6つの言語技術のトレーニングによって、2つの力を育てることを目的としている。

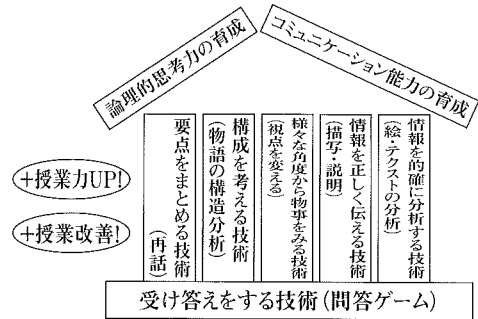
1つ目は、論理的思考力の育成である。根拠を明確にしながらかえること、筋道を立てて考えること、情報をもとに自分の考えを整理することなどのトレーニングを通し、論理的思考力の育成ができるようになる。

2つ目は、コミュニケーション能力の育成である。言語技術のトレーニングの多くは、他者との関係を前提とし、相手意識をもって伝え合うことや、目的と場に応じて自分の考えを表現していくことなどから、コミュニケーション能力の育成に効果があると考える。

そして、子どものことばの力を高めるためには教師のレベルアップが不可欠である。教師自身が言語技術を意識し、教材研究を深めるとともに、わかりやすい発問や切り返し、説明するなどの指導技術を高めていきたい。

指導技術として授業で意識する10のポイントは以下の通り。

- ① 省略せず、整った文で表現させる。
(単語の発言を察しないで最後まで言わせる。言い直しもさせる。)
- ② 主語をつけ自分の意見であることを意識させる。
- ③ 考えたこと・学んだことを自分の言葉で言わせる。(答えが同じでも自分の言葉で言わせる。)
- ④ 結論を先に言わせる。
- ⑤ 根拠を明らかにさせる。(どこから? なぜ? そう考えたか等必ず聞き返す。)
- ⑥ 自分の考えをもつ場を設定する。(自己の確立をめざす。)



【言語技術で育てたい力】

- ⑦ 伝え合う場を設定する。(話し合いの論点を明らかにする。)
- ⑧ 書く活動を工夫して設定する。
- ⑨ 構造的板書を工夫する。(学習の足跡が分かるようにする。)
- ⑩ 言語環境を整備する。

3. 本年度の活動

6回の研修会を実施することができた。

研修会の内容は、主に言語技術の基礎を学ぶことと、各教科における言語技術を使った授業展開について考察していくことである。また、高知新聞社や高知県NIEホットライン、他県の方々と連携し、研修会を行うこともできた。

研修のほとんどは提案型の模擬授業形式で行った。提案者は、児童につけなければならない基礎の言語能力は何なのかを明確にし、ねらいに沿った教材で模擬授業を行う。さらに、どの場面でのどの言語技術を使えば、児童の思考が深まっていくのかを参加者全員で議論し合う。

研修会は、参加者全員の指導力を具体的な教材を使って鍛え合っていく場である。また、若い先生方と経験豊富な先生方が実践交流をする場でもある。

※ 本年度実施した研修会の内容は、次の通りである。

回	内 容	提案者
第1回	<p>『言語技術の基本を学ぼう』</p> <p>【第1講座】 問答ゲーム～論理的な受け答えをしよう～「あなたの今年度の目標は何ですか？」</p> <p>【第2講座】 今年度の目標をはがき新聞に書こう！～コンパクトな言語活動として有効なはがき新聞について学ぼう～</p> <p>【第3講座】 絵の分析～絵や写真から情報を根拠として分析し、説明する方法について学ぼう～</p> <p>【第4講座】 3年生・4年生の教科書教材を中心にした演習 ①音読での単元学習 ②3年生での社会科「地図学習」の授業 ③国語の授業での小ネタ</p>	<p>香美市立山田小学校 梶原和美</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p>
第2回	<p>『言語技術の基本と新聞活用』</p> <p>【第1講座】 問答ゲーム～論理的な受け答えをしよう～ 「東京に行くとしたら、新幹線か飛行機か？」</p> <p>【第2講座】 言語技術の基本（演習）</p> <p>【第3講座】 授業が楽しくなる新聞活用「新聞の読み比べ」「小ネタ」</p> <p>【第4講座】 新聞活用の演習「まわし読み新聞」</p>	<p>香美市立山田小学校 梶原和美</p> <p>NIEホットらいん 川口加代子</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p>
第3回	<p>『探究的・協働的な学びを探ろう』</p> <p>【第1講座】 質問力を高めていくためのゲーム ～話し合いや言語活動を活性化するために（1）</p> <p>【第2講座】 問答ゲームで子どもにつけたい力とは？ 演習：問答ゲーム ※問答ゲームをしている学級のお話</p> <p>【第3講座】 ジグソー学習を取り入れた国語の授業（模擬授業）</p> <p>【第4講座】 演習：となりの人を紹介しよう ～話し合いや言語活動を活性化するために（2）</p> <p>【第5講座】 新聞の俳句コーナーを読んで、はがき新聞で伝えよう</p> <p>【第6講座】 新聞小ネタ特集</p>	<p>香美市立山田小学校 梶原和美</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p> <p>NIEホットらいん 川口加代子</p>
第4回	<p>『言語技術の基本研修』</p> <p>【第1講座】 演習 取材「問答ゲーム」</p> <p>【第2講座】 「国語科」安養寺先生の実践</p> <p>【第3講座】 ジグソー学習～協働的な学びについて考えよう～</p> <p>【第4講座】 対話のトレーニング～教師のスキルを高めよう～</p> <p>【第5講座】 言語能力の育成について</p>	<p>香美市立山田小学校 梶原和美</p> <p>安田町立安田小学校 安養寺淑江</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p>
第5回	<p>『高知新聞社・NIEホットらいん・徳島県NIE教育推進協議会との合同研修会』</p> <p>【第1講座】 問答ゲームでつく力とは？</p> <p>【第2講座】 「問答ゲーム」～論理的な受け答えをしよう～</p> <p>【第3講座】 国語科の授業改善～言語技術を授業に生かす～</p> <p>【第4講座】 デイバート「あなたは制服派？私服派？」 ～新聞活用とアクティブラーニング～</p> <p>【第5講座】 「新春」ザ！新聞小ネタ特集</p> <p>【第6講座】 徳島県の先生方の実践発表</p> <p>【第7講座】 「はがきでお国自慢」～はがき新聞で交流しよう～</p>	<p>香美市立山田小学校 梶原和美</p> <p>徳島市立佐古小学校 藤田賀史</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p> <p>NIEホットらいん 川口加代子・宮本久賀</p>
第6回	<p>『探究的・協働的な学びを探ろう』</p> <p>【第1講座】 「問答ゲーム」～論理的な受け答えをしよう～</p> <p>【第2講座】 実践発表</p> <p>【第3講座】 高知県学力学習状況調査の問題分析</p> <p>【第4講座】 言語技術を活用した授業案</p>	<p>室戸市立吉良川小学校 松岡貴裕</p> <p>高知市立潮江南小学校 貝川佳恵</p> <p>福山市立水呑小学校 山崎千佐</p> <p>尾道市立御調中央小学校 吉田貴志</p>

4. 基本研修より

広島県で言語技術を取り入れた授業を実践されている教諭から、言語技術の基本的な考え方や方法について学んだ。

【6つの「言語技術」について】

○ 受け答えをする技術（問答ゲーム）

問答ゲームが全ての基本。問答ゲームを土台にしてトレーニングを行う。広島県の「言語技術」では、10のステップで段階的なトレーニングを行っている。

1対1の対話ができない子どもは大勢での議論もできないし、自分の意見を伝えるディベートもできない。問答ゲームからスタートして子どもたちの「なぜ？」を育て、自分の中にある答えを外に出す訓練を普段からすることが、自分で考えるトレーニングにつながる。

○ 要点をまとめる技術（再話）

再話をもとに、書く力（作文力）をつける。授業の中では、聞き取ったことを

書いたり、物語文のメモをしたりすることで、要点をまとめるトレーニングを行っている。

○ 構成を考える技術（物語の構造分析）

6構造分析 冒頭－発端－山場（クライマックス）－結末－その後（主人公の）を定義に分けて分析を行う。文学的な文章の第一次の全体を捉える学習には大変有効である。

○ 様々な角度から物事をみる技術（視点を変える）

様々な登場人物の立場に立ち、複眼的にものを見る目を養う。この技術からジグソー学習が生まれた。（国語の文学的な文章の指導には大変効果的である。）

○ 情報を正しく伝える技術（描写・説明）

実際に見ていなくても、うまく説明するだけで情報を獲得することができる。

○ 情報を的確に分析する技術（絵の分析・テキストの分析）

教科の幅を越えて使われている。絵・テキスト共に授業で有効な技術。

【再話の授業実践】

ことばの学習指導案

1. 学年 第2学年

2. 言語技術 要点をまとめる技術（再話）

「ムカデのおつかい」（つくば言語技術教育研究所 「再話のための物語集」より）

3. 言語技術について

再話は、「物語の要点をまとめる力」をつける学習である。ここで児童につけたい主な力は、「聴いて理解する力」「基本的な文章構成の技術」「表現力」である。

本時は、まず「再話」の方法や注意点を確認して行う。絵を見せながらお話を聞き、登場人物や場面の順番を把握する。そして、お話の内容を展開や結末が変わらないように書かせる。

4. 本時の目標

○ お話の登場人物や展開を理解して、おおまかなあらすじをつかんでお話の全体を再話できる。

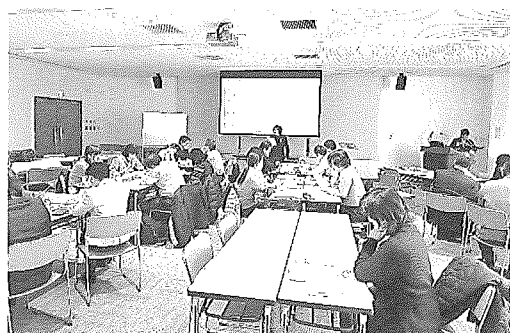
5. 評価規準

○ 絵の並べ替えをし、おおまかなあらすじを最後まで書くことができる。

6. 準備物

再話シート、再話シート用に場面の絵を印刷したもの、絵を拡大したもの、再話のための物語集

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
○ 問答ゲームをする。	
<p>○ 「ムカデのおつかい」の再話をする。 〈再話の方法の確認をする。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 登場人物はだれでしょう。 ● カエルは、どこに行くことになりましたか。 ● カエルは、何を買ってくることになりましたか。 ● ムカデは、どこに行くことになりましたか。 ● ムカデは、何を買ってくることになりましたか。 ● ムカデは、どうして遠くの町まで行くことになったのでしょうか。 ● カエルが帰ってきたときに、ムカデは、何をしていましたか。 ● どうして、ムカデはぞうりをはかせていたんですか。 <p>○ 場面の絵を順番に並べましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 再話のねらいを確認させる。 ☆ お話を聞いて作文に書くこと。 ☆ お話の順序や登場人物や結末を変えてはいけないことを確認させる。 ☆ 内容の確認をしながら理解度の確認をする。(いつ・どこ・誰・なぜ・何のために・どのように)を中心に質問する。 ☆ 黒板に大切なポイントを順番にメモをする。 ☆ 挿絵を使って並べ替えをさせる。
<p>○ 2度目の読み聞かせをする。</p> <p>○ 再話シートに再話を書く。</p> <p>○ 時間があれば1～2名に発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ おおまかに全文を再話し、再話シートに書かせる。 ☆ 時間経過、残り時間を知らせる。 【評価】内容を変えずに、お話の最後まで描くことができる。



【研修会の様子】

5. 成果と課題

6回開催した言語技術スキルアップ研修会では、演習を通して、理由や根拠を明確にして受け答えをしたり、多くの情報から必要な情報を選択し、自分の考えを表現したりするなど教師自身が必要なスキルを学ぶことができた。

【参加者の感想】

- 問答ゲームをやり始めた時、随分と意

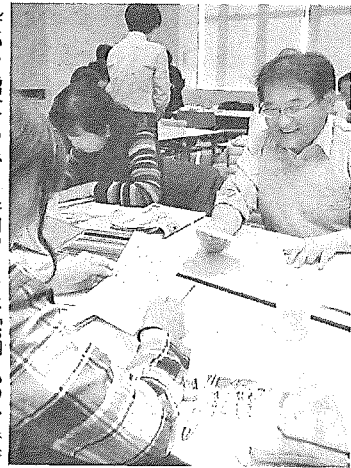
徳島・高知 先生が交流

徳島県でNIEに取り組んでいる先生たちがこのほど、南国市で開かれた本県の先生たちの合同研修会に初めて参加し、本県ではおなじみの「はがき新聞」を一緒に作り合った。交流を深めた。

はがき新聞作成 合同研修会開催

盛んです。それを耳にした「徳島NIE研究会」の先生たちが「先生たちの活発な活動や、はがき新聞の取り組みなどをぜひ学びたい」と希望し、初めは「はがき新聞」の交流が実現しました。徳島からは小学校の先生やOJ、徳島新聞社のNIE担当者らが参加。本県からは小中高大の先生や大学生が集まったほか、言語技術教育研究会で助言している広島

の先生たちが「先生たちの活発な活動や、はがき新聞の取り組みなどをぜひ学びたい」と希望し、初めは「はがき新聞」の交流が実現しました。徳島からは小学校の先生やOJ、徳島新聞社のNIE担当者らが参加。本県からは小中高大の先生や大学生が集まったほか、言語技術教育研究会で助言している広島



はがき新聞づくりなど交流を深めた（南国市）

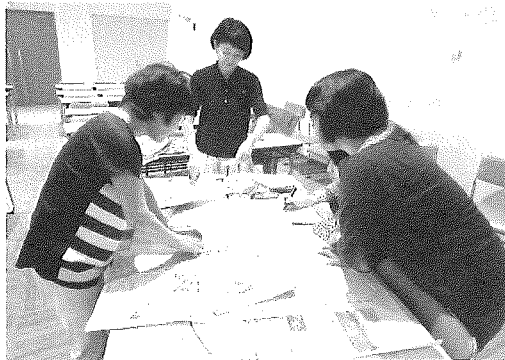
の先生たちが「先生たちの活発な活動や、はがき新聞の取り組みなどをぜひ学びたい」と希望し、初めは「はがき新聞」の交流が実現しました。徳島からは小学校の先生やOJ、徳島新聞社のNIE担当者らが参加。本県からは小中高大の先生や大学生が集まったほか、言語技術教育研究会で助言している広島

ない県だ。テレビを見るため「終電」とは呼びません。という見出しを付けた徳島市佐古小学校の藤田實史先生は、本県の参加者から「ホームページが楽しみな」と期待たつかりに声を掛けられ「うまく書けるかなあ」と冷や汗をかきながら、それを作ったことが、参加者同士で読み合っている。見出しを一緒に作って、見出しを

交流。藤田先生は「初めて取り組みましたが、書いた新聞に反応があるものうれしい。子どもたちも同じだろうなって想像できました。ぜひ学校でやりたいです。こんな交流も続けていきたいですね」と話していました。また、はがき新聞に立ち、徳島側を代表して藤田先生が学校での取り組みを報告。見出しを一緒に作って、見出しを

識して根拠を言わせていた。児童から自然に「どうしてかと言うと…」と理由が聞かれていた。しかし、不思議なことにこだわらなければ、児童が理由を言わなくなってしまう。根拠にこだわるのが、論理的な思考力を生み出す…道筋を立てた考えになる…そのことを実感している。奥が深いのが問答ゲーム。これは技術。技術は常にトレーニングし続けていると能力が低下してしまう。

- 再話の演習を通して学んだことは、再話の目的は、作文と読解のための基礎訓練で、子どもたちが文章をすらすらと書くためのトレーニングであるということ。集中して物語文の論理展開や因果関係をとらえないと再話はできない。再話は「書く」「聞く」ことの複合した力を育てることができると思った。
- 新聞活用研修では、目的をもって新聞を読むことで、自分の言語環境が豊かになったという実践のお話を聴くことができ、新聞の良さを考えることができた。



【研修会の様子】

高知新聞 平成29年3月4日掲載 →

(代表：梶原和美)